



## 1. ごあいさつ

総務幹事 北條洋 (福島県立医大会津医療センター・医学部病理病態診断学講座)

平成25年8月31日、国立成育医療研究センターにて開催されました第33回日本小児病理研究会総会において中山雅弘先生の後任として会員の皆様から総務幹事にご推挙いただきました福島県立医大会津医療センター・医学部病理病態診断学講座の北條洋です。何卒よろしくお願いいたします。

以前から私は小児病理研究会は小児医療総合医療施設の先生方の主導の元に発展を遂げるべきと考えてきましたので、戸惑いも感じています。小児医療総合医療施設の先生方は小児疾患に造詣が深いだけではなく、小児医療の現況や今後の方向性、社会的重要性と責任を肌感じて業務しておられるからです。今でもこの考え方は変わりません。大学人として34年間過ごして参りました私はときに立場の違いによる認知度のズレを感じてきましたが、これを会の発展の連携できると良いと思っています。総務幹事を引き受けるにあたり、「若手人材育成の強化」、「診断・研究水準の向上、均てん化」「広報活動の充実」の3点について取り組みたいと思います。

若手人材育成の強化：教育プログラム・専門医ガイドラインの策定

「若手人材育成の強化」、「診断・研究水準の向上、均てん化」は一体をなすものです。

私はsubspecialtyの項目にpediatric pathologyを選んできましたが、私の小児疾患の専門分野は小児期腫瘍のごく一部に過ぎず、チェックするたびに戸惑いと後ろめたさを感じてきました。小児血液・がん学会では専門医試験を施行するにあたり、必要な提出書類、到達目標となる各項目と熟知度を公表しました(小児血液・がん学会50.499-579,2013)。また、SPP (Society for Pediatric Pathology)のfellowship committeeでは”Fellowship training in Pediatric Pathology: A guide for program directors”と題した論文をPediatric and Developmental Pathology(16,102-123, 2013)に掲載しました。これらは専門医育成のためのガイドラインで病理専門医試験を受験する際に提出が求められる「病理専門医研修ファイル」内容に相当します。各小児医療総合医療施設では施設独自の教育プログラム・ガイドラインを公開していると思いますが、小児病理研究会では、小児病理をsubspecialtyとする「若手病理医倍増計画」を目標に据え、標準的な育成ガイドライン作成を目指す必要があると思います。具体策については皆様にご相談しますが、まず、現状を把握することからはじめたいと思います。

診断・研究水準の向上、均てん化：consultation system、データベースの充実と活用

私は、稀少疾患の診断は成書に頼るため独りよがりになる可能性が高いと日頃から感じてきました。これは

また研究面においても言えることです。小児疾患はほぼ全てが稀少疾患に相当し、知識を得るため各専門分野の学会や研究会への参加が不可欠ですが、日常業務に追われる現状があります。先輩の先生、若手の先生にもご参加頂き、各分野別に診断、研究について気軽に相談できるsystem作りが必要で皆様におはかりし、ご賛同頂ける先生の専門分野別リストを書いた住所録を作成してはどうかと思っています。臨床研究対象の小児期腫瘍については国立成育医療研究センターに集積されたアーカイブの利用が可能ですが具体的な利用案内を策定したいと思います。アンケート集計にありませぬ腫瘍性疾患の登録についても、肺疾患は厚労省科研「小児呼吸器形成異常・低形成疾患研究班」(研究分担者：松岡健太郎先生)と連携して行くことが重要と考えております。

広報活動の充実：社会的活動の展開

病理関連医療従事者のための活動は勿論ですが、小児病理医の仕事内容を患者さんを含めた一般社会に広く知っていただくための広報活動が必要です。会員の皆様が所属されています施設には小児がん拠点病院が多数含まれております。広報パンフレット作成や市民講座の開催などの広報活動を展開すべき時期だと思います。

その他：アンケート集計結果を踏まえて、コンパニオンミーティングと研究会の開催

先般行われましたアンケート調査の結果が出されました。研究会を日本小児・周産期病理学会と改変する。非腫瘍性疾患の登録システムワーキンググループを設置すると言う意見が多数寄せられました。しかし、研究会の充実をはかることが最も重要であり、また、改変や新たな設置のための具体策が必要ですので会員の皆様方の積極的な参加をお願いします。

第103回日本病理学会総会(平成26年4月、広島)でコンパニオンミーティングを開催いたします。また、第33回日本小児病理研究会は成育医療研究センター病理診断部 中澤温子先生のお世話で成育医療研究センターにおいて無事開催されました。また、第34回日本小児病理研究会は岡山大学付属病院 病理診断科 柳井広之先生のお世話で岡山市において開催されます。会員以外の先生、若手病理医をお誘いの上多数の先生の参加をお願いします。詳細は当会報をご覧ください。

2年間微力ではございますが会員の皆様にご相談しながら日本小児病理研究会発展のため目標に向かって取り組んで参りますので皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが会員の皆様のご健勝お祈り申し上げます。

## 2. 第33回小児病理研究会学術集会および第10回小児病理セミナー/小児周産期病理診断講習会



さる平成25年年8月31日（土）に中澤温子（国立成育医療研究センター 病理診断部）先生のお世話で、第33回小児病理研究会ならびに第10

回小児病理セミナー/小児周産期病理診断講習会が国立成育医療研究センター 講堂にて開催されました。参加者は53名。

主題「臓器移植の病理」4題

一般演題5題が出題され、活発な討議が行われました。

教育講演は1. 骨髄移植の臨床

松本 公一先生（国立成育医療研究センター 小児

がんセンターセンター長）、2. 造血細胞移植後活性化マクロファージと合併症の病理  
伊藤 雅文先生（名古屋赤十字病院病理部）でした。

前日の30日には小児腫瘍症例検討会が開催され、23例が出題され、活発な討議が行われました。

第10回小児病理セミナーは横紋筋肉腫の病理診断と鑑別というタイトルで、大喜多肇先生（国立成育医療研究センター）による診断講習会が行われました。

次回第34回学術集会は岡山大学医学部柳井広之先生のお世話で平成26年9月6日（土）に開催されます。前日の9月5日（金）には小児腫瘍症例検討会が開催されます。



松本公一先生



伊藤雅文先生



大会終了時に、中澤先生から柳井先生へトーチキングスティックが手渡されました。



合同懇親会（於国立成育医療研究センター）にて

## 3. 幹事選挙結果のお知らせ

幹事選挙報告（事務局）（敬称略）

平成25年8月12日 国立成育医療研究センター病理診断部

開票・集計 中澤温子幹事、松岡健太郎幹事兼事務局

開票結果（投票総数42通、有効投票41通、無効1）  
岸本宏志23票、北條洋22票、藤本純一郎13票、平

戸純子13票、次点柳井広之10票（以下略）

以上の結果、岸本会員、北條会員、藤本会員、平戸会員が新任幹事となった。

幹事（残任期間4年）；岸本、北條、藤本、平戸  
幹事（残任期間2年）；小木曾、田中、中澤、中山

任期終了；宮内、井上、大喜多、松岡

## 4. 幹事会・総会

日本小児病理研究会幹事会および総会が8月31日に国立成育医療研究センターにて開催されました。おもな討議・決定事項は以下の通りです。

次期総務幹事として北條洋先生が選出されました。

学術担当幹事として岸本宏志先生（埼玉県立小児医療センター）、広報担当幹事として中澤温子先生（国立成育医療研究センター）、渉外担当幹事（国際交流などを含む）として田中祐吉先生（神奈川県立こども医療センター）が選任されました。また、監事として柳井広之先生（岡山大学医学部）が選任されました。また、

井上健先生（大阪市立総合医療センター）にアドバイザーとして参加していただくことが提案されました。されました。

次期副会長として松岡健太郎先生（国立成育医療研究センター）が選出されました。

名称変更については周知不足もあり、再度準備検討を行うこととなりました。

疾患登録ワーキンググループについては、ネットワーク作りを行っていくことが提案されました。

平成24年度会計報告ならびに平成25年度予算が承認されました。

## 5. アンケート結果のお知らせとお礼

会報で最近の各種医学活動団体の多くは活動開始時の研究会から、活動内容の充実に伴い、学会へと発展していることをふまえ、名称の変更を検討しており、会員の意見をおうかがいしたく、下記にアンケート結果を掲載します。多数のみなさまのご協力に感謝いたします。

### 1. “研究会”を“学会”に改称することについて。

賛成26、反対4、どちらともいえない9

### 2. “研究会”、“学会”にかかわらず、会の名称“日本小児病理”を“日本小児・胎児”、“日本小児・周産

期”などに改称する。

賛成17、反対9、どちらともいえない11

### 3. 改称するとすればどのような名称がよろしいでしょうか

日本小児・周産期病理22、日本小児・胎児病理2、無記入15

### 4. 胎児、小児期の非腫瘍性疾患の症例蓄積登録ワーキンググループの設置について

賛成25、反対1、どちらともいえない12

## 6. 第103回日本病理学会学術集会コンパニオンミーティングのお知らせ

来る平成26年4月24日～26日に広島国際会議場で第103回日本病理学会が開催されます。日本小児病理研究会コンパニオンミーティングが4月25日（金）17時50分より開催されます。

タイトルは小児脳腫瘍の分子病理（仮題）です。

## 8. 事務局より

今夏の学術集会への多数のご参加ありがとうございました。今年もまた活発なご討議ご発表がなされました。◇今会報の発行が大幅に遅れて申し訳ございませんでした。◇アンケートにご協力ありがとうございました。◇研究会から学会への名称変更については再度検討することになりました。◇会報の内容やアンケートについて周知不足があったこともあり事務局としては会員各位への周知の工夫をするよう努めます。◇会員のみなさまのご意見ご提案をお待ちしております。◇来年もご協力のほどよろしくお願いたします。◇みなさまよいお年をお迎え下さい。

## 7. 会費納入のお願い

### 会費納入のお願い

本会規約により、本会会費は年間5,000円となっています。下記振り込み口座にお振り込み願います。納入状況は次号配布時にお知らせします。会費について不明の点

は事務局 松岡までご連絡ください。

ゆうちょ銀行

【店名】008

【店番】008

【預金種目】普通預金

【口座番号】8661284

日本小児病理研究会会報61号  
平成25年12月24日発行  
編集・発行 松岡健太郎  
日本小児病理研究会事務局  
<http://jspp.info/>  
〒157-8535  
東京都世田谷区大蔵2-10-1  
国立成育医療研究センター

病理診断部病理診断科  
TEL (03)3416-0181 FAX  
(03)5727-2879  
E-mail  
[matsuoka-k@ncchd.go.jp](mailto:matsuoka-k@ncchd.go.jp)

平成24年度会計報告ならびに平成25年度予算案

平成24年度会計報告		平成25年度予算案	
収入の部		収入の部	
会費	525,000円	会費	300,000円
前年度繰越金	672,454円	前年度繰越金	954,194円
郵便貯金利息	120円	郵便貯金利息	150円
寄付（中山雅弘先生より）	200,000円		
小計	1,397,574円	小計	1,254,344円
支出の部		支出の部	
第32回学術集会補助	300,840円	第33回学術集会補助	300,000円
会報発送費（57, 58, 59号）	21,120円	会報発送費（3号分）	25,000円
IPPA会費（2011～2015年分）	65,140円	ホームページ管理費	50,000円
ホームページ管理費	53,340円	通信費	10,000円
事務費	2,940円	事務費	5,000円
小計	443,380円	小計	390,000円
次年度繰越金	954,194円	次年度繰越金	864,344円

上記会計報告は平成25年8月23日に日本小児病理研究会・監事 藤本 純一郎先生により監査承認されました。